

平成17年度 試験研究(事前)評価整理表

整理表1

試験研究機関名 水産試験場

所管グループ 研究開発グループ

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験期間		評価結果	コメント	外部評価アドバイザーのコメント	評価結果の反映状況(予算要求・手法・その他)
	施策目標	研究課題分類				開始	終了				
1	豊かで魅力のある水産業の振興	砂浜性貝類の合理的利用技術に関する研究	アサリ資源増殖技術の開発	食害、底質環境等近年におけるアサリの減耗要因を明らかにし、稚貝発生促進等の増殖手法である「客土」の効果を検証することにより、松川浦内の様々な漁場環境に応じた増殖手法を提示する。	1 アサリ減耗要因の把握 松川浦内の採泥調査(4～10月、1回/月)により、食害生物の生息や底質環境とアサリの密度及び成長との関係を明らかにする。 2 客土効果の検証 客土漁場における毎年の稚貝発生状況、底質及び底生生物相を把握する。稚貝発生量と底質環境の年変化から、客土効果の持続性を検証する。	18	22	A	重要な取り組みと考えられるため、研究計画どおりに実施すべきである。	重要な取り組みで緊急性もあり、研究計画も妥当だと考えられる。なお水産関係の研究では、例えばメヒカリへの注目等もあり、県産主要魚類の加工・流通の研究にも留意いただきたい。	予算要求額は国庫資金の導入により当初計画どおりとし、課題解決のために重点的に取り組む。手法等については計画どおり実施する。
2	豊かで魅力のある水産業の振興	底魚資源の生態・動態の解明及び管理手法に関する研究	松川浦における幼稚魚生息状況調査	松川浦において幼稚魚の出現状況を把握し、出現数とその後の外海における漁獲加入量との関係を検討する。関係が明らかとなった魚種については、稚魚の出現状況から、資源の適切な利用方法を漁業者へ提示し、自主的管理を促進する。	松川浦における幼稚魚の季節別出現数、サイズ等を把握する。また、市場に水揚げされた魚の全長組成等を調査し、漁獲加入時期、年齢別漁獲尾数を把握し、幼稚魚調査結果と併せて資源水準を推測する。	18	22	A	特にニーズが高く、波及効果も大きいと考えられるため、優先的に実施すべきである。	重要な取り組みで緊急性もあり、研究計画も妥当だと考えられる。	予算要求額は国庫資金の導入により当初計画どおりとし、課題解決のために重点的に取り組む。手法等については計画どおり実施する。
3	豊かで魅力のある水産業の振興	県有用水産物の優位性の解明に関する研究	県産主要魚類の優位性解明	県産主要魚類の脂肪の乗り具合等の成分を魚種別、季節別に調査し、また他地域の魚と比較することで魚価向上につながる優位性を明らかにする。	本県水揚主要魚種の脂肪量などの一般成分を把握し、成分の季節変化や比較から、県産主要魚種の旬を確認する。また、本県産と競合産地産品の旬における成分及び餌料生物比較から、県産主要魚種の優位性を把握する。	18	22	B	重要な取り組みと考えられるため、研究計画どおりに実施すべきである。	ブランド化のためにも大いに進められたい。	予算要求額は新規重要課題につき計画どおりとし、重点的に取り組む。手法等については計画通り実施する。
4	豊かで魅力のある水産業の振興	漁況予測手法の開発	オキアミ漁況予測手法の開発	オキアミの漁場形成要因を解明して漁況予測手法を開発する。得られた漁況情報を提供することにより、船びき網漁業者の効率的な操業を促進する。	調査海域：いわき沿岸海域 調査方法：計量魚探による来遊量把握、魚群探知機による分布状況把握、漁場内外の水温、塩分、流向・流速等測定による漁況予測	18	22	B	重要な取り組みと考えられるため、研究計画どおりに実施すべきである。	統合化された情報に基づく漁況の把握と情報提供は、現場ニーズに対応した技術開発に必要と評価される。	予算要求額は国庫資金の導入により当初計画どおりとし、課題解決のために重点的に取り組む。手法等については計画どおり実施する。